

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)
分担研究報告書

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究

研究分担者 谷口 昇 所属機関名 鹿児島大学医歯学総合研究科整形外科学
研究協力者 河村 一郎、富永 博之、八尋 雄平、俵積田 裕紀

研究要旨 : 胸椎後縦靱帯骨化症における後方除圧固定術の合併症、治療成績

A . 研究目的

胸椎 OPLL における Instrumentation 併用後
方除圧術の術後合併症、成績の検討

B . 研究方法

当院で胸椎後縦靱帯骨化症に対して
instrumentation 併用胸椎除圧固定術を行
った症例を検討。

年齢

術前 JOA score

知覚障害出現から手術までの期間

歩行障害出現から手術までの期間

後弯角の改善率

局所骨化角

骨化型 (嚙型、平坦型)

骨化占拠率

最大骨化巣の高位

髄内輝度変化 (MRI T2WI)

術後感染

神経合併症

その他合併症

C . 研究結果

2017 年度報告に 2018 年手術施行分症例を
追加し、現在解析中である。

D . 考察、

胸椎 OPLL は術後症状悪化することもあり
治療に難渋する疾患である。後方除圧固定
術により著明な改善がない場合前方固定
を行う施設、あるいは悪化した場合前方固定
を追加する施設があるが、当施設では術後
悪化例もしくは症状が全く改善しない症例
は前方固定を追加する方針で行っている。

また、胸椎 OPLL 肥満症例における特有の
合併症率も考えられ、検討中である

E . 結論

胸椎除圧固定術において後弯矯正の重要性
が改めて示唆された。

F . 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G . 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

2. 実用新案登録

3. その他